

## 中学生の職場体験学習！

松浦市内の中学校では職場体験学習に取り組んでいます。職場体験は、身近な社会の現場で実際に勤労体験をすることで、働く大切さや勤労意識を養うことを目的に行われており、生徒たちは、市内のさまざまな事業所に出向いて2～3日間希望する職場に“勤務”します。

松浦市役所には、6月27日～29日に調川中学校から1人、7月5日～7日に志佐中学校から2人、7月12日～14日に御厨中学校から1人の生徒が訪れました。市役所内外の業務の説明を受け、催しの準備や運営のほか、西九州自動車道の工事現場見学や企業訪問などを行いました。

職場体験は、ふだん学校や家庭では学ぶことのできない社会のしくみの一部を学ぶことのできる場です。子どもたちの可能性がさらに広がるよう地域全体で連携していくことが大切です。



今回は、市役所を訪れた5人のうち、志佐中学校3年の百武歩さんと吉田晴陽さんが、カメラと筆記用具を持って、事業所を訪問して自分たちで取材をして記事をまとめ、市報づくりに取り組みました。その記事をご紹介します。

### パイナップルの実のなり方って知ってますか？

御厨町の山本総合保険サービス（山本勝治代表取締役）の事務所内で育てていたパイナップルに実がなりました。

山本さんは、植物を育て、増やすことを楽しまれており、観賞用のパイナップルを育てるうちに食用のものでも育つのではないかと考え、5年前からスナックパインを鉢植えで育て始めました。3月の下旬頃、小さな実の存在に気づいた時は大変嬉しかったそうです。この品種は、こぶし大より少し大きいサイズまで育つことや、室内の他の植物のことも詳しく説明していただき、植物への愛情の深さを感じました。



## ラッコのようにういてまて！

ういてまて講習会が、7月19日、上志佐小学校プールで行われました。

この講習会は、主に消防職員をメンバーとして結成された「長崎県着衣泳会まつうラッコ会」がボランティアで毎年実施しており、今年は、7月10日～8月10日の期間中、市内5箇所の小学校（鷹島小学校、今福小学校、星鹿小学校、上志佐小学校、志佐小学校）で開催されます。

今回、上志佐小学校全学年46人の児童が、突然訪れる水難事故に対して、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方や着衣での水難救助について学びました。子どもたちは、衣服や靴をつけたまま水の中を移動する感覚を確かめたり、ペットボトルやライフジャケットを使って仰向けで浮く（背浮き）訓練を行いました。服を着たまま水に入った時の動きにくさを実感し、万が一川などに落ちたときは、無理に泳ごうとしないことや、友達が落ちたときは近くの人に「119番」に電話してもらうこと、子どもたちだけで海や川に近づかないことなどを教えてもらいました。

夏は水の事故が増加しやすくなります。まつうら出前講座のメニューに登録されていますので、着衣泳に興味を持たれた人は生涯学習課へお申し込みください。



# 地元の子どもたちの体験活動

《田代地区での体験活動の取り組み》

御厨小学校 5 年生：田植体験

御厨小学校 6 年生：かから団子づくり体験

御厨中学校 1 年生・2 年生：味覚体験（※ 9 月・10 月実施予定）



田代地区は全国から体験型旅行の受け入れを行っており、農村宿泊体験、農業体験、味覚体験、自然体験、工芸体験、加工品作り体験などメニューも豊富です。

田代地区グリーン・ツーリズム研究会は、「何か楽しいことをやりたい！もっと活気のある地区にしたい」という思いから、平成 15 年 5 月に岩木保徳さんを中心<sup>やすのり</sup>に地元有志 4 人で発足しました。地道な取り組みの積み重ねが、多くの賛同と参加につながり、今では、体験民宿 34 軒、インストラクター会員 89 人で、年間 2,000 人を超える受け入れを行っています。これらの事業は「松浦党の里 ほんなもん体験」として一般社団法人まつら党交流公社が実施しており、同会も参加しています。

取り組みを続けていくなかで、岩木さんは、地元の子どもたちにこそ地元の産業に触れてもらい、理解し興味を持ってもらうことが必要だと感じるようになったそうです。岩木さんは、「松浦市は漁業・農業が基幹産業だと PR しているのに、体験する機会のないまま進学等で松浦市を離れる子どもが増え、よその子どもたちが体験活動を受けている現状に危機感を覚えたからです。地元に戻ってきて欲しいと思っても、その子どもたちは地元の魅力を実感できないまま外に出ていて地域の産業を身近に感じていないのではないかと。体験活動を通して、仕事や地域の魅力を発見するきっかけにして欲しい」と考え取り組まれています。

御厨小学校、中学校の協力を得て、単発の活動で終わらず、小学 5 年生から中学 1 年生まで、数年かけて違うメニューで体験活動を実施されており、今年度は中学 2 年生も体験活動を行います。

6 月 13 日、御厨小学校の 5 年生や保護者ら約 60 人が田植え体験を行いました。素足で田んぼに入り、泥の感触に歓声をあげた子どもたち。みんなで一列に並んで苗を 3 本ずつつまんで植えていきました。赤土で粘土質の田んぼは動きにくくて泥んこになった子もいましたが、友達と手植えのスピードを競ったり、オタマジャクシを見つけたり、楽しみながら作業を続け、約 90 分間かけて田植えが完了しました。

また、同日、御厨小学校の 6 年生や保護者ら約 55 人が、かから団子づくり体験を行いました。かから団子は、カカラの葉で包んだ小豆あん入りの米の粉団子で、昔、親戚や近所の人たちが協力して田植えをしたあとに振る舞われていた地域のごちそう。たくさんのお団子をつくるため、子どもたちは大量の材料をこねたり、丸めたり、一生懸命作業に取り組みました。

完成したお団子は田植え作業後の 5 年生の元にも届けられ、できたての味をみんなで楽しみました。

その地域だからこそできる体験活動を通して、子どもたちがもっと松浦市を好きになってくれることを願っています。

